



鷺の宮卓話

名を呼びあえる繋がり

太田敬雄

若いころ、私は二つの対照的な高等学校を教師として経験しました。一つは5000人の生徒を収容できるアメリカのマンモス校。もう一つは母校、玉川学園の分校で総生徒数120名、教員数8名の小さな学校でした。

最初の学校は半年、次は1年半という短い経験でしたが、それが私にとっては非常に貴重な学びの場となりました。その経験から私は学校のサイズから教育について考えるようになり、到達したのが「全ての先生方が全生徒の名前と顔が一致していて、先生は生徒の背中に向かって名前を呼ぶことのできるサイズが学校の理想的なサイズだ」という思いです。生徒数で言えば200名程度が限度でしょうか。

別の言い方をしますと、教師と生徒がお互いに「人と人」として交わり、教師も生徒も共に成長することができるサイズが学校としての適性サイズだと思うのです。

その後、大学で教えるようになり、この思いは

さらに強くなりました。大きな大学では、授業が終わって一步教室を出ると、教師も学生もお互いに知らん顔をしてすれ違うのが普通でした。単位のためだけの、教室の中の繋がりが教育のすべてでは無いはずでした。

最近、IIMSの多文化交流活動にかかわってきたインドネシアのウィラスティさんが北海道の東川町の国際交流員となったことからこの町が似たような考え方をしている事を知りました。人口8000人程度の東川町では、基幹産業の農業とのバランスを取るために「あくまでも8000人規模を維持」することを目指しており、その考え方を「適疎(てきそ)」と表現しています。「適疎」とは過疎でも過密でも無く「適当に疎がある」という意味で、「互いに顔が見えて名前を呼びあい、3つの『間』(仲間、空間、時間)を共有でき、なおかつ一定の行政サービスの水準を保てる人口規模が適疎です。」と町長が記しておられます。

IIMSの諸活動においても学校や東川町と同じようにお互いの顔を見て名前を呼びあうことのできるサイズを大事に考えていきたいと思っています。小さいことを良しとする活動の維持には多くのイマジネーションと独創性が求められますが、そこに私たちが目指す平和への活動があります。

2023年度総会のご案内

2023年5月27日(土)14時~15時

今年の総会は昨年に続きオンライン(ZOOM)での開催といたします。正会員の皆さまはメール・LINEなどにて出欠をご連絡下さい。

<議題>2022年度事業報告、2022年度会計報告、監査報告
2023年度事業計画、2023年度予算、役員人事

~~~~~

【賛助会員、学生会員の皆様へ】総会の陪席や懇親会へのご参加も大歓迎です。  
参加ご希望の方は5月20日までにご連絡下さい。

# 多文化交流inぐんま2023冬

2月10日~2月12日 安中学習の森



今回のテーマは「君とぎゅっとキミともっときみとずっと友達」

参加者・スタッフ・食事ボランティアを始め、応援してくれる方々…

初めて関わる人も、再び関わる人も、様々なバックグラウンドを持つ「君」は一人ではなく、そこにいるみんなと友達になる。

寒い冬に寄り添い合い、より仲を深めることのできる多文化交流にしたいという想いで取り組みました。

交流会では、すいとんやこしね汁、きりたんぼんといった日本の「鍋料理」や自分で作るハンバーガーなどおいしいものをたくさん食べたり、チームに別れて運動会で体をめいっぱい動かしたり、ミニキャンドルを作ったりしました。

他にも、温泉に行ったり、フリータイムではそれぞれゲームや会話をして夜中まで楽しんでいました。

今回は、コロナ感染症の規制の緩和により、海外からの参加者も迎えることができました。コロナ禍に行っていたオンラインの活動で画面上でしか顔を合わせていなかった参加者とも実際に会うことができ、感慨深い気持ちでいっぱいになりました。

前回に引き続き、コロナ禍で人と出会う事が難しかった中、こうして国籍・年齢・性別を超えてかけがえのない友達を作ることができ、多文化交流の温かさを感じました。

今回の交流会の開催にあたり、ご支援・ご協力いただきました皆様のおかげで、無事に「多文化交流inぐんま 2023冬」を終了する事ができました。心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

## 共同代表より

前回に引き続き共同代表を務めさせていただいた。時間をかけて準備してきたにもかかわらず、直前にハプニングが重なり心が折れそうになった。しかし、スタッフの皆がいたから、そして今までの最高の経験があったから、「なんとかなる」という気持ちで、当日無事に乗り切ることができた。

今回は前回と比べて、準備期間を含めより濃い時間を多文化で過ごすことができたと思う。その分苦労したことも多かったが、多くのことを学び成長できたと感じている。

私自身、多文化での活動を始めて一年半近くなるが、回数を重ねるごとに多文化のことを好きになる。今後もそういった人たちが増えていってくれたら嬉しい。

群馬県立女子大学3年 唐沢実里



今回の交流会では、オンラインで顔を合わせていた海外の友達や前回参加してくれた友達に会うことができ、多文化に帰ってきたという気持ちになりとても嬉しかった。多文化ではお互いが認め合い、自分の経験や文化を共有し、誰とでも仲良くなれる、この温かみを今回もたくさん感じ、私自身も多文化がよりどころになっていると感じた。

スタッフという立場からも今回は天候による企画変更などの変更などもスタッフ同士しっかり話合うことで対応することができた。参加者から「この交流会が好き」と言っていただけの場所を作り上げることができ、本当にやりがいを感じた。

これからも多文化交流、またそこで出会った友達を大事にしていきたいと思う。

群馬県立女子大学3年 須川奏



## 参加者からの声

(交流会終了後に作文を送ってくれました)

今回は4度目の参加となります。四カ月間にわたり、プログラムを企画してくださったスタッフのみんな！ご苦労お察しします。スタッフのみんなが事前に万全な代案を企てくださったからこそ、みぞれの降る中にも、楽しんでいました。逆に雪が降ったおかげで、学習の森は一変して、普段見ない絶景になったね！その時に、あ！銀世界（中国語：银装素裹）ってこういうことなんだとわかった！

そして、多文化の給食はおいしいよ！私の味覚に一種のおふくろの味を形成させていただきました。再度参加の理由の一つも給食の美味しさです。超healthy&specialじゃない！めっちゃ農家+多文化の味がします。農家の味というのは、食事ボランティアのみんなが心を込めて、作ってくださった温かさと料理自体がにじみ出た郷土の味わいです。多文化の味とは同じ釜のご飯を食うことから、放ったにぎやかな味わいです。この二つの味が相乗効果を生み、五感で食事を楽しんでいただきました。参加者の皆様、食事ボランティアandスタッフのみんな、ありがとうございました！

最後に、多文化は有意義なことを20年以上も続けることに感服致しました。国の違いから、価値観も違います。それを理解して、平和世界、多文化共生社会へ歩み寄りましょう！！

ロイナン  
盧易南（中国：高崎経済大学4年）



今回の多文化交流は、寒波が襲来し、事前に考えていたことにさらに選択肢を加えて熟考する必要があり、スタッフは不安を感じながらも準備を進めてきた。それによってスタッフの団結力がさらに上がり、そして参加者や食事ボランティアのみなさんの笑顔に元気をもらい、成功させることが出来た。スタッフ経験者は、多文化交流でしか味わえない達成感と幸福感の虜になるのである。

群馬県立女子大学1年 伊藤愛



今回の活動に初めて参加して、準備期間もイベント当日も様々な思いを感じた。自分がやるべき仕事が多くあり、一人一人が責任をもって活動する中で、スタッフ間での絆が深まったと思う。不安と緊張もあったが、当日は参加者とも楽しく過ごすことが出来た。イベント終了後、自分の中では反省があったが、今回の活動のお陰であらゆる部分において、成長することが出来たと感じる。

共愛学園前橋国際大学1年 井上華



三カ月ものミーティングで積み上げてきたことが、天気一つ崩れるだけですべてなしになってしまう。これは初めての経験でとてもショックな出来事ではあった。しかし考えてきたことが実行に移せなくてもそれは無駄ではなかったし、考えてきたからこそ今回の想定外の状況にも対応できたと考える。ほかでは体験できないような貴重な体験ができた。

群馬県立女子大学1年 高間咲輝



## スタッフの感想

初めて運営側や企画に携わったことで、様々な視点や観点の気付きを捉えることが出来た。数々の調整を重ねながら迎えた当日は、困難を上回るほどの達成感で一杯となり、皆で目標に向かい頑張った経験は貴重な時間であった。多文化交流で、培った経験や知識は今後の活動の糧になるはずだ。今まで、積み重ねてきた頑張りや他の活動にも当てられるように精進したい。

共愛学園前橋国際大学1年 中沢朱里



多文化交流オンラインには何度か携わってきたが、対面開催でのスタッフは初めてだった。天候や時間、様々な可能性を考えて柔軟に対応出来たことが今回の多文化で素晴らしい点だと思う。やはり実際に顔を見て、3日間一緒に過ごすのは、強い絆を生むと感じた。多文化交流の素晴らしさを肌で感じる事ができ、またスタッフの経験を通して自分自身も大きく成長できたと思う。

群馬県立女子大学3年 針山莉奈



# オムニバス講座のスタッフを やっています



根岸大輔

学生時代から研究所の多文化交流スタッフとして関わり初めてから、気がつけば9年くらいたちました。社会人になってからも、何か研究所に関わりたいたいと思っていたところ、オムニバス講座のスタッフのお話をいただきました。

こうして、今も関わり続けられること大変嬉しく思います。力になれるよう頑張ります！

中島愛

対面ではじまり、ここ数年はオンラインで開催が続けられているオムニバス講座。オンラインでできることで、離れた土地、遠い海外からも講師や参加者が集まれています。画面越しでも様々な文化や考え方に触れられる素敵な会。参加できたのまだ数回程ですが、これからも幅広く、多様な想いをシェアできる場となるよう、微力ながらお手伝いできればと思います。

狩野真由美

オムニバス講座は素晴らしい講師の方々のお話が聴けて、参加するたびに刺激を受けています。毎回驚くのが、様々なジャンルで活躍されている講師の皆さんと繋がっている太田先生の人脈の広さです。今後、どんな方のお話が聴けるのか、とても楽しみです。司会のときは毎回緊張しており、なかなかスムーズに進行できませんが、太田先生、ほかのスタッフ、講師や参加者の皆さんに支えられて、なんとか乗り越えています。これからもオムニバス講座を、どうぞよろしく願い致します。

澁谷和代

仕事で、仲間と一緒にワンコインセミナーを開催した事がありました。今回、オムニバススタッフの感想を!とお話をいただき、「あなたがやっていた『ワンコインセミナー』、タイトル使わせてもらってもいい?」と太田先生からご連絡をいただいた事を思い出しました。そのご縁で新短時代の先輩方のスタッフグループに入れていただいたのがオムニバススタッフの始まりでした。

リアル開催からオンライン開催になりましたが、こうして続けられているのはチームの力です。そして、太田先生の素晴らしい人脈と行動力が一番の原動力ですね。

スタッフ同士でお互いを支えあいながら活動し、新たな学びもいただいています。

30年以上前から細く永く続いている繋がりや新しい繋がりを大切に、これからも楽しく活動させていただきたいと思っています。

ご参加の皆様、スタッフの皆様、そして太田先生、いつもありがとうございます。



コロナ禍は世の中の活動に大きな影響を与えました。国際比較文化研究所でも、中止や見送りにせざるを得なかった活動がいくつもありました。その中で、オムニバス講座は二〇二〇年からオンラインに切り替えることで、講師も参加者も安中に限定する必要がなくなり大きく発展しました。

多文化交流もまた、オンラインに切り替えることで、三か国の学生がスタッフとして交流プログラムを作り上げるといいう新しい発展をすることができました。その経験を踏まえて、昨年夏からもう一度対面での交流をスタートさせています。今号ではその二つの活動のスタッフの皆さんに語っていただきました。

## IIMS の会員になって平和な地球を目指す活動を支えてください

入会ご希望の方は、振込用紙に「入会希望」と記載の上、正会員は3000円、賛助会員2000円お振込みください。いずれの場合も入会金は戴いておりません。

なお、正会員は総会における議決権を有します。賛助会員・学生会員には議決権は有りませんが、ご希望の方には総会に陪席していただくことができます。

## ニューズレターのお届け方法について:

現在、ニューズレターは紙媒体でお送りしている方と、メールでお送りしている方が有ります。お届け方法の変更希望がございましたら [iims.since2000@gmail.com](mailto:iims.since2000@gmail.com) にご連絡ください。

## 「友達の輪が目指す平和な地球社会創り」

今の時代は、この活動を増々求めるようになっていきます。皆様に支えられ、使命感を持って、これからも「多文化交流活動」「オムニバス講座」を始め、諸々の活動を力強く進めて参ります。

## 会費及びご寄付のお振込みについて:

### 【クレジットカードによる手続き】

下記 QR コード、もしくは IIMS のホームページからアクセスして頂き手続き・ご登録ください。



研究所 (IIMS) のホームページ  
<http://www8.wind.ne.jp/mthc>

### 【振込用紙による手続き】

郵便振替口座：加入者名 国際比較文化研究所  
口座番号 00510-1-61974

ニューズレターを郵送させていただいた皆様には、振込用紙を同封させていただきます。これは請求書ではなく、一律に皆様にお送りしているもので、すでに会費をお振込み下さった方にもお送りしています。

メールでニューズレターをお送りしている方々には振込用紙をお届けできません。特に会費の請求はお送りしておりませんが、郵便局の振込用紙、もしくはカードでお振込みくださいますようお願いいたします。振込用紙の場合、会費か寄付かを通信欄にご記入くださいますようお願いいたします。

## ご入会状況及び会費・寄付振込状況 (22.12.8.~23.3.10.)

### カード振込は (22.12.1.~23.2.28.)

会費やご寄付のお振込み、有難うございます。皆様に支えられて 2023 年度に向かいます。

会費のカッコ内は年度。カッコ無しの氏名のみは 2022 年度会費。敬称は略させていただきます。

学生会員 2022 年度入会：井上華、中沢朱里、

正会員会費 (年 3,000 円)：荒井美幸

賛助会費 (年 2,000 円)：佐俣由香、水木健一、坪井教由、伊藤優子、前田浩、吉野愛子 (23)、李孟蓉、山縣英明 (23)、佐俣英司(23,24)、伊藤義彦(22,23)、新井瑞穂(23)、小林久子(23)、上田暢子(22,23)、近藤佳代(23)、

一般寄付：佐俣由香、山縣英明、伊藤義彦、新井瑞穂、小林久子、木戸美歌、藤木真優、前田浩、

毎月寄付：ファン翠、樋本達之、福崎結子、根岸大輔、Rosdiana Febrianti、藤本恵大、内野春香、片岡謙。

編集後記：◎IIMS 発足当時から支えて下さった会員の方々が、お歳を召されたために退会される方が増えています。長年のサポートに心より感謝すると同時に、そんなところでも自身の老いを感じます。私は 3 月 25 日で 81 歳になりましたが、生かされている内は平和な社会実現の夢を見続け、その夢の実現に向けて多文化交流や日本で働く人々のための交流の企画などの活動し続けていく覚悟です。さらには日本語教育の分野でもできることが有るのではないかと考えています。とにかく、声を大にして平和を語り続け、汗することを続けて行きたいと思えます。(敬)

発行：特定非営利活動法人国際比較文化研究所  
事務所：379-0124 群馬県安中市鷲宮 3413-3  
電話：027-382-5998 FAX:027-382-6393  
研究所：<http://www8.wind.ne.jp/mthc>  
メールアドレス：[iims.since2000@gmail.com](mailto:iims.since2000@gmail.com)  
まなばる：<https://www.manapal.jp>  
メールアドレス：[mail@manapal.jp](mailto:mail@manapal.jp)  
郵便振替口座：加入者名 国際比較文化研究所  
口座番号 00510-1-61974